



# 学校だより

(10月号) 令和4年9月30日発行

<http://shibiraki-e.saitama-city.ed.jp/>

## 【学校の教育目標】

◎ 夢(ゆめ)にむかって ともに学びあう学校

- ・すすんで勉強する子
- ・自分からあいさつのできる子
- ・仲よくたすけあう子
- ・じょうぶな子

《今月の生活目標》 本をたくさん読もう



## きれいになった学校の植栽

～ 地域や保護者の皆様のご協力に感謝して ～

校長 白石 徳一郎

爽やかな秋の空気を感じる気持ちのよい季節となりました。新型コロナウイルスの収束を願いながらも、先が見えてきませんが、コロナ感染に注意して、子どもたちのために学校行事等もできるだけ実施したいと考えています。

さて、8月31日、9月2日に、地域や保護者の皆様にご協力いただき、正門を入った体育館前や体育館脇、校庭入口の植栽、校舎に沿った花壇や畑、みどりの広場、ビオトープ周辺、校庭の雑草など、日頃、なかなか手が回らなかった環境整備を行うことができました。草刈り鎌や枝切りばさみ等を持ち寄っていただき、念入りに草刈り、雑草抜き、落ち葉取り、枝払い等をしていただきました。電動の草刈り機で、広大な範囲の草を一気に刈ってくださったので、見違えるようにきれいになりました。樹木の枝払いは、何年ぶりだろうと思うほど、すっきりして気持ちがよくなりました。長年、学校を愛してくださり、このように応援して下さる保護者や地域のボランティアの皆様のご厚意に、衷心より感謝申し上げます。



9月2日は残念ながら雨がやまなかったため、児童の活動は中止し、地域や保護者の皆様には小雨の中、活動していただきました。1時間目に体育館で体育をしていた1年生が教室に戻る時、活動しているボランティアの方々に「ありがとうございます」とお礼を言いながら教室に戻っていたことが嬉しく思いました。自分たちのために活動してくださっていることに感謝の気持ちをもち、言葉にして伝えることはとても大切です。子どもたちのためにと活動してくださっていた皆様も嬉しく思われたことと思います。

話は変わりますが、夏休みの自由課題で「小さな親切」作文コンクールに応募した児童が数人いました。いざ、親切を意識して生活してみると、席を譲ったり、体の不自由な方に声をかけたりする場面は、なかなかないものです。応募された作文には、通学班で、自分が1年生だった時に6年生にしてもらった親切が嬉しかったので、自分も1年生に親切にしたいと思って、お話をしたり、荷物を持ってあげたりしているという話がありました。1年生の表情を見て、1年生の気持ちを考えながら親切を考えているというところに感心しました。

その他に、4年児童の「小さな親切」作文も素晴らしかったので一部を紹介します。

ぼくの家の近くには、お年よりが多く住んでいます。一人暮らしのおじいちゃん、おじいちゃんとおばあちゃんの二人で住んでいる人もいます。ぼくのおじいちゃん、おばあちゃんも近くに住んでいます。

(中略) 救急車が何回も来ました。救急車が来た時はビックリしました。何があったのかと心配になりました。お母さん達も、みんなで「大丈夫かね」と話しました。救急車が行った後も「たいした事がないといいね」と言っていました。

ぼくのおじいちゃんの家となりに一人暮らしのおじいちゃんが住んでいます。毎日見ているのに、2、3日電気が暗い時がありました。電気がついていないので、どうしたんだろうとみんなで話していました。4日目に声が出たので、おばあちゃん行ってみたら入院していたと言っていました。ぼくのおばあちゃんは、「心配するので、そういう事があった時は声をかけてね」と言っていました。

そのことがあってからは、ぼくのおじいちゃんとなりの家の人には、かならず毎日おばあちゃんといっしょに声をかけるようにしています。ぼくたちもだんだん年をとって、おじいちゃんやおばあちゃんみたくなるのかなあと思いました。これからは、ぼくのおじいちゃん、おばあちゃん、近所の人にも声をかけてあげようと思います。重い物を持っている時や困っている時は、手伝ってあげようと思います。(4年児童の作文より)

子どもからお年寄りまで、みんなが助け合える地域コミュニティを目指して、子どもにもできること、自分にもできることを考えることは大切なことだと思います。「小さな親切」運動で取り組んでいる「あいさつ運動・トモダチ作戦」はまさに、あいさつをすることで人と人とのつながりを作る取組です。

10月1日から赤い羽根共同募金運動が始まります。感謝の気持ちをもつと共に、身近な所から思いやり・助け合い、親切の輪が広がり、誰にでも優しい気持ちをもつ子どもたちに育ちますように願っています。